

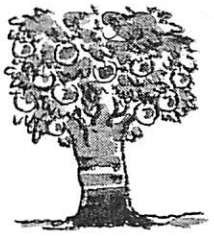
かりてきたきかいで、それをかためていきました。四か月にわたるこのような作業をして、ついに、手づくりの野球広場ができあがったのです。

今、ぼくたちは、大野さんのおかげで、すばらしい手づくりの野球広場で、楽しく安心して遊んでいます。

この広場をぼくらの広場として、いつまでも、大切に使っていこうと思っています。大野さん、本当にありがとうございます。



## 20 二人の男



むかし、ある所ところに、二人の男がとなりあつて住すんでいました。ゴルトムントは働はたらき者で、一日中、あせを流ながして働いていました。リムベツトはなまけ者で、魚つりをしたり、木の上で昼ねをしたりしていました。

秋になって、木の実みのなる季節きせつがきました。ゴルトムントは、リンゴの木がたくさん実をつけたので、リムベツトに手伝てつだつてくれるようにたのみました。でも、リムベツトときたら、魚つりをしたいので、いっこうに手伝おうとせませんでした。

ゴルトムントは、初めはうきうきして働いていましたが、取つても取つてもリンゴが取りきれないので、そのうちに、ばかばかしくなってきました。それで、手にしていたリンゴをカマかせに投げると、町へ遊びに出かけていきました。

ゴルトムントの投げたリンゴは、空高く上がり、なんと魚つりをしていたリムベットの頭の上に落ちてきました。



リムベットは、くらくらつとしました。でも、はつとして、ゴルトムントの畑に走っていきました。見るとかがたおされていて、ゴルトムントが見当たりません。そ

こで、リムベットは、かごからころげ落ちたリンゴを片づけ、一日中リンゴ畑で働きまじりました。つかれはしましたが、「働くってなんてすてきなんだらう。」と思いました。遊んではかりいたのではとても味わえない気分です。

ゴルトムントは、町へ出るなりビールをコップで三ばい飲みました。でも、「このにがいへんな味は何だらう。おいらのリンゴ酒の方がよっぽどましだ。」そう思うと、はやくリンゴをとってしまおうと、ふらつく足をふんばって帰りはじめました。

やっこのことで家につくと、リンゴをいっぱいとったリムベットが、にこにこしながらむかえてくれました。二人はぶじをよろこび合い、リンゴ酒でかんぱいしました。

